



2025.11.14

瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

天気予報に感謝！

大変お礼が遅くなって申し訳ありません。過日の運動会は2時間遅れのスタートとなってしまいましたが、お子さんたちは練習の成果を発揮し、かけっこや遊戯に元気な姿を見せてくれました。保護者の皆様も優先席でのルールに快くご協力くださって、競技ごとの交代もトラブルなくご覧いただくことができました。ご家族皆様でご参加いただきましたこと、ご理解・ご協力に心より感謝です。

前日の天気予報では曇りと晴れマークだったのに、朝早く起きたら雨が降っていて、TV画面を見ると天気予報も変わっていて、びっくり！「天気予報のうそつき！」と叫びながら幼稚園に向かいました。運動場はあちこちに水たまりができ、雨は降り続いています。お天気レーダーでは9時・10時には雨マークと曇りマーク、その後12時からお日様マーク、「よし、絶対に今日運動会を開催する！」の決意のもと、運動場の整備、天候の変化、気温の上昇を考え、2時間遅れで始めることを決め、11時スタートに変更しました。皆様にご理解をいただき、本当にありがとうございました。

今はお天気レーダーで何時間後の天気を知ることができますが、昔の人はどうしていたのでしょうか。紀元前4世紀ごろ、古代ギリシャの哲学者・アリストテレスが天気のパターンを観測し、気象に関する本を書いたとされています。当時は科学が発達していなかったため、空や雲を観察し、その様子などから経験的に天気を予測していたそうで、「夕焼けの次の日は晴れ」「太陽に光の環がかかると、次の日は雨」ということを発見しました。17世紀になると温度計や気圧計が発明され、気温や気圧など気象に関するデータを参考に、天気の研究が進んでいったそうです。

私が幼い頃は一生懸命お天気の神様をお願いし、テルテル坊主を作っていました。遠足や運動会など、お天気にならないと誰かのせいにして、「雨男」や「雨女」の称号をもらっている方もみえるのでは？今思えば誰かの心がけのせいでお天気が変わるわけないのに……。どんなお天気でも現実を素直に受け止めて、どのように行事を乗り越えるか、私たち人間の知恵が試されます。でも1時間ごとや、先の先までわかる現在の天気予報は本当にありがたい、ですね。

生きているのは奇跡？

先日、敬老会に出席させていただいた時、このお話をしました。「幼稚園のお誕生会で、子どもたちにみんなは誰から生まれたの？と聞くと、『ママ』と答えます。でもパパもいないと生まれません。ではパパとママは誰から？と聞くと『おじいちゃん、おばあちゃん』、ではおじいちゃん・おばあちゃんは？と聞くと『ひいおじいちゃん・ひいおばあちゃん』、みんなの命はずっとつながっていて、そのどちらがいなくても生まれてこなかったの。だから感謝しましょうね、と子どもたちに教えています。家族を大切にすると子どもたちが育てば、高齢者の皆様も安心ですね。」とお話しました。

地球の誕生は約46億年前、その後、人類が誕生したのは、およそ500万年前のアフリカ、さらに進化して、日本人である私たちの大部分は、弥生時代以降に大陸から入ってきた人々の子孫だそうです。我々のご先祖様は、大災害や戦争の苦しい時代を生き抜いて、現在の私たちに命はつながりました。



その敬老会では88歳と99歳の方にお祝いを渡しました。99歳の方は女性で、素敵な上着とアクセサリーでおしゃれをして、とてもお元気でした。現在の日本で100歳以上は99,763人（女性が88%）みえるそうです。これからの少子高齢社会を支えていくことに不安はあるかもしれませんが、命がある奇跡に感謝し、老いも若きもお互いに思いやりの心で乗り切っていくことが必要だと思います。「子ども叱るな 来た道じゃ 年寄り笑うな 行く道じゃ」人生は一度きりです。